

イギリスへ行きたい！



ガヴァネスを通して歴史を見る

過去から新しい発見

人間社会学科・国際文化コースで、佐久間亮先生の歴史社会サブコース（イギリス史）を専攻している中野さん。高校時代から歴史が好きでしたが、佐久間先生の講義がおもしろく、その影響で英国の歴史や文化に惹かれました。

「歴史を学ぶことで新しい発見ができるんです。佐久間先生の講義の内容は逆説的で、目から鱗が落ちる、ということもしばしば。過去のある出来事が持つ両義性が歴史をおもしろくしているんだと思います」と言う中野さんが研究しているのは英国の近代19世紀、特に女性史。中でも「ガヴァネス」に興味を持っています。

ガヴァネスとは女性の住みこみの家庭教師です。その歴史は古く、800年ぐらいから王宮や貴族に仕えていましたが、近代、ヴィクトリア女王の時代になると中流階級

「でも、卒論はきびしいですよ」とは佐久間先生。

「合宿では進行中の卒論の途中経過の発表会をやったり、提出までに4校ぐらいさせます」

映画とお酒が好きな先生。映画の話になると止まりません。もちろんイギリス映画ですよ。

「ハリウッドの派手な映画もいいけど、イギリス映画には深い味わいがあります」

と、どんどん熱くなります。中野さんはそんな先生と映画の好みは合わないこともあるけれど、仲の良い先生の研究室が大好きなようです。「イギリスのことに何かひとつでも興味があるという方は、

でもガヴァネスを雇うことが一般的になりました。

「当時の中・上流階級の女性たちはむやみに働くべきではないと考えられていましたが、結婚相手が見つからなかったり、父親の事業が失敗したりして経済的に自立しなければならなかったときに求めたのが、このガヴァネスという職なんです」

十人十色の研究

佐久間先生の研究室では、ゼミ生それぞれが庭園、競馬、パンク、シノフスリ（中国趣味という意味のフランス語、装飾などの仕様）等々、それぞれが好きなテーマを決めて研究しています。定期的にその発表会があり、お互いの情報や成果を交換。そこで新たなアプローチの仕方を発見したり参考にします。

「見まともがないようですが、ある事柄をのぞき窓として、当時のイギリス社会を考察していくという

ぜひ一度私たちのゼミに遊びに来てください。今まで閉じていた探求心の扉が開くかもしれません」

手法は共通しています。定期的な発表は、知識の整理整頓に役立つことはもちろんですが、度胸も養われます」

文献や資料は全て自分で集めます。佐久間先生がゼミ生の自主性・自立性を尊重しているためです。

「先生は問題点をびしとつてみますが、助言はしてくださっても指示されることはありません。自分の思うように出来るのでやりがいがありますね」

仲の良い研究室

ゼミでは何よりもコミュニケーションを大切にしています。新入生歓迎会、合宿やキャンプ、飲み会、追いコンなど、全てゼミ生が主体となっていて行いますが、その中でお互いの絆が深まっています。

ひとりひとりの研究が寄り集まって、英国の歴史の流れ全体と社会や文化が見えてくるように。



hiroko nakano